

主体的に考え、表現し、伝え合おうとする児童の育成
～ 4年生社会科「わたしたちの愛知県」の学習を通して～

小牧小学校 鈴木 愛美

1 主題設定の理由

学習指導要領が改訂され、小学校では令和2年度から完全実施される。子どもたちの現状と課題を踏まえ、新学習指導要領解説では、改善の方向性として「主体的・対話的で深い学び」の実現を挙げ、その実現に向けた授業改善を進める上での留意点の一つとして、次の点が示されている。

各教科等において通常行われている学習活動（言語活動、観察、実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とするものであること

「小学校学習指導要領解説 総則編」（平成29年7月）より

ここから、授業改善の方向性が、以前から推奨されてきた「言語活動の充実」から「主体的・対話的で深い学び」へ移行するというものではないということが分かる。今までの学習活動の流れを汲みつつ、学習の質を一層高め、授業改善の取り組みを図るものではないと考える。

本学級（4年生35人）の児童は、友達と話をすることが好きな児童は多い。しかし、「聞いてほしい」という気持ちが強いあまり、自分の意見を言い合って終わってしまう光景がよく見られる。グループで話し合う場面も多いが、話の得意な児童が多くを語り、話が苦手な児童は聞き役に徹してしまっていることもある。また、授業中は、受け身な姿勢で参加する児童もいる。自分の考えを根拠とともに伝え、さらに友達の考えをしっかり聞いて、そこから自分の考えを深めていく児童を育てていきたいと考える。「話す・聴く」活動はもちろん、「書く」活動もバランスよく取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして、研究を進める。

2 研究の目標および研究計画

（1）目指す児童像

「わたしたちの愛知県」の学習において、愛知県の様子について主体的に調べ、考える中で、特色やよさを知り、自分の言葉で愛知県について語ることのできる児童

(2) 研究の仮説

仮説 1 話し合う活動を中心として授業を組み立てることで、課題に意欲的に向き合い、愛知県の特色やよさを見出すことができるであろう。

仮説 2 授業で調べたことや学んだことを表現する場を設定し、継続的に取り組むことで、自分の思いを持って愛知県について語れるようになるであろう。

(3) 仮説に対する手立て

ア 仮説 1 に対して

手立て① 発問の工夫

児童が主体的に「学びたい、考えたい」という意欲を引き出すには、児童への発問が大切であると考えます。授業中に話し合いが進んでいく中で、話題の中心となっている事柄について全体で確認させたり、さらに考えを深めさせたりするためには、教師側がねらいを持って、その場に応じた発問を投げかけることが大切である。愛知県の様子を深く考えさせるための発問を以下の通り 3 つのパターンで考えた。

I	「どこ?」「どれ?」 「たとえば?」	具体的な場所や事柄を問う発問
II	「どうして?」 「なんでそう思った?」	根拠を問う発問
III	「どこからそう思った?」	判断材料を尋ねる発問

手だて② 話し合い活動の充実

本学級の児童は、全体の前では委縮してしまっても、少人数でなら話すことができる児童もいる。それを踏まえて、授業中はグループ活動、全体交流というような形で話し合う活動をもつことで、児童の主体的な意見交流の場を設定した。特にグループ活動は、意見の「言い合い」にならないように次のような点に留意させる。

- 話している子をみんなで「聴く」
- 自分の意見を言うだけでなく、前に話した子の内容をできるだけ続けてみる
- 「分からなさ」もどんどん出す
- グループみんなが、必ずしも同じ意見にならなくても良い

イ 仮説 2 に対して

手だて③ 授業で学んだことをもとに、まとめを書く

クラス全体で課題を提示して考える授業をした際には、授業後にまとめを書く時

間を設ける。一人一人が、自分の言葉で学習課題に対するまとめを記述することにより、知識を確かなものにする。「愛知県の〇〇は・・・」という書き出しで、毎回パターン化することで、自分なりの言葉でまとめを書くことができるようにする。

手だて④ 愛知県の新聞づくり

愛知県について、自分が興味・関心を持ったことをさらに追究させることで、愛知県についての魅力を自ら発掘し、「みんなに伝えたい」という思いも強くなるのではないかと考えた。新聞づくりの活動を通して、必要な情報を取捨選択することで表現する力や、調べたことをまとめることで伝え合う力を育成できると期待する。

手立て⑤ 愛知県の紹介文

紹介文は、単元の最初と最後で2回書かせることにした。愛知県についての知識や考えがどの程度変化するか比べるためである。読み手に向けて紹介するということで、文章中には児童たちの「愛知県の魅力を伝えたい」という気持ちが出てくるだろう。単元最後の集大成となるので、学習した内容や自分が魅力的に感じた部分をまとめ、自分の言葉で愛知県について語ることができるようになると思った。

(4) 抽出児童について

以下のような抽出児童を設定し、手立ての有効性を検証していく。

抽出児童	具体的な児童の様子
児童 A	どんな学習でも粘り強くがんばってやり遂げようとする。 文章を書くのは好きだが、自分の考えを伝えることは苦手。
児童 B	自分で考えたり、伝えたりすることが得意。社会科の学習にも意欲的である。文章では、話すときほどたくさん言葉が出てこない。

3 研究の実際

(1) 単元名 「わたしたちの愛知県」

(2) 単元のねらい

児童たちは愛知県に住んでいるが、何気なく生活しており、本県について深くは理解していない。「知っているようで知らない」と感じている愛知県は、児童が主体的に追究する題材として、相応しいものであると考えた。3年生では、小牧市について学習してきたが、もう少し範囲を広げ、愛知県の様子にもっと関心を持ってほしい。そして、愛知県に愛着心を持ち、自分の言葉で語ることのできる児童を育成したい。

(3) 学習計画（9時間完了）

関心をもつ

第1時 愛知県の位置を調べ、知っていることを出し合う

調べ、考える

第2時 愛知県の地形や土地利用の様子について調べる

第3時 愛知県の人口について考える

第4時 愛知県の気候について考える

第5時 愛知県の交通の様子について考える

追究する

第6・7時 愛知県について、調べたいテーマで新聞にまとめる

第8時 新聞にまとめたことを発表する

まとめる

第9時 県の特徴をまとめる

4 授業の実際と考察

(1) 調べ、考える

第2時～第5時の学習では、授業展開を以下のようにして進めた。

- | | |
|----------|---|
| <課題を知る> | 課題を知り、資料から必要な情報を読み取るための視点をもつ。 |
| <予想を立てる> | 課題を解決するための関連資料から、予想を立て、仮説を設定する。 |
| <検証・確かめ> | 課題解決の根拠となる情報が提示されている資料を読み取り、その資料を基に検証・確かめをする。 |
| <まとめ> | 習得した知識を基に、愛知県についてまとめる。 |

このような学習の流れの中で、話し合いの活動を中心にしながら、児童が主体的に考えようとする気持ちを引き出せるように支援していくことにした。

ア 第3時 愛知県の人口について考えよう

<課題を知る> 愛知県の人口はどんなところに多いのでしょうか。

<予想を立てる>

ー 全体交流の様子 ー

C1：名古屋が多いと思う。ビルが多いから、人も多い。

C2：トヨタ（自動車）があるから、豊田市も多いんじゃないかな。

T：なんでトヨタ自動車があると、多いと思った？

C2：だって働いている人がその辺で住んでいると思うから。

C3：住宅が多いところは人多そう。

【資料1 愛知県の土地利用図】

T：たとえば？

C4：(資料1を見て) 一宮とか豊橋とか
刈谷とか、ピンクのところ。

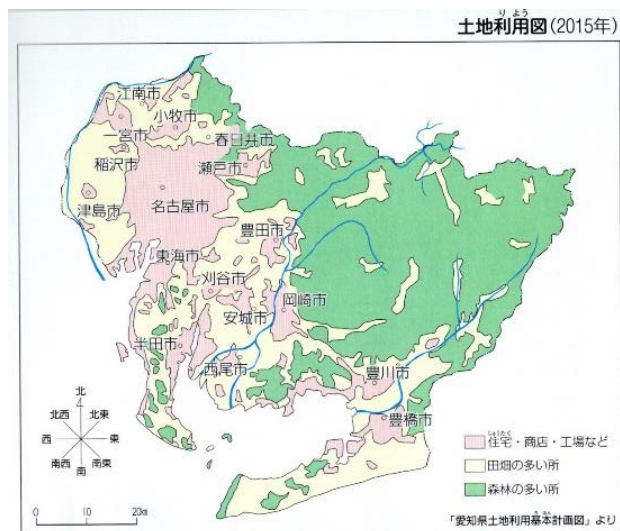
C5：(小声で何かつぶやく)

T：C5、何て言ったか教えて。

C5：C4の話で、豊橋は多いと思う。

T：どこからそう思ったの？

C5：愛知県の天気予報でいつも名古屋
と豊橋が出てくるから、その2つ
がメインなのかなって。

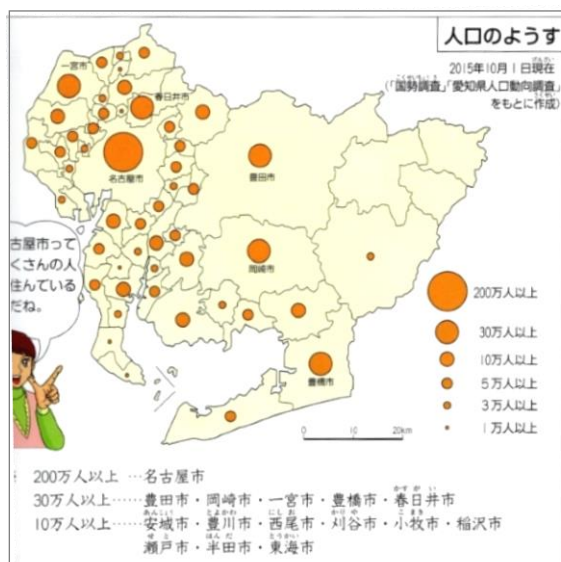


「愛知県の人口はどんなところに多いと思うか」という課題に対して、多いと予想した市町村を単純に答えさせるだけではなく、手だて1で示したような発問を意図的に投げかけてみた。C2が「豊田市」に人口が多いと考えた理由で挙げた「トヨタ自動車で働く人が住む」という視点は、その後に発言したC3の「住宅が多いところに人口は多そう」につながっている。また、「豊橋市」に多いと考えたC5は、普段よく目にするテレビの天気予報から憶測したというのも興味深い。「愛知県」という身近な題材を扱うからこそ、生活体験と関連させて考えることができた。

<検証・確かめ>

資料2を提示し、グループ活動で実際の人口の様子について読み取らせた。どのグループも「名古屋はやっぱ多い」「名古屋が200万人以上」ということを話題にしていた。また、「豊田市」「豊橋市」などについては、あるグループで「1万人より少ないところが東の方にかたまっている」ということを話題にしていたので、一度クラス全体で「どうしてだと思う?」と問いかけた。すると該当の場所が「設楽町、東栄町、豊根村」であ

【資料2 愛知県の人口の様子】



ることを調べたり、資料1の図を関連させて、「この地域は森林が多いところ（緑色の部分）」ということを読み取ったりしていた。そして、「森林が多いということは家があまりなく、人もあまり住んでいないのかな」と、同じ愛知県内であっても、市町村によって人口に違いがあることを理解していた。

イ 第5時 愛知県の交通網について考えよう

<課題を知る> 愛知県のどんなところに交通網は広がっているのでしょうか。

<予想を立てる>

第3時の時に使った資料を見せながら、予想を立ててみた。

ー 全体交流の様子 ー

C1：やっぱり名古屋は多いと思う。前やってみたいに人が多いし。

T：今の意見につなげられる人いる？

C2：ビルも多いし、通勤も多い。電車が通ってる。

C3：朝に名古屋に行ったことがあるけど、電車すごい人だった。

C4：あと、なんかいろんな電車がある。

T：たとえば？

C4：地下鉄とか新幹線とか。

C5：小牧もいろんな高速道路がつながってる。東名とか名神とか。

C6：豊田也多そう。

T：なんでそう思う？

C6：自動車を運んだりするために、いろんな道路があるんじゃないかなと思った

C7：でも、豊田って山も多いからどうなんだろう。

予想を立てることに慣れてきて、活発な話し合いができてきた。自分たちで話題をつなげて話したり、根拠付けて理由を説明ながら、課題について意欲的に考えようとする姿がうかがえる。「名古屋市」に交通網が広がっているだろうと発言したC1は、既習事項の人口と交通網とを関連付けて話し、さらにC2～C4は自分の体験などを交えて語っている。「豊田市」については、「トヨタ自動車」によって交通網が発達していると考えたC6と、資料1の土地利用図を基にして「豊田市」には森林が多く、豊田市全体として本当に交通網が発達しているのかと少し疑問に思っているC7の2つの意見が挙げられた。両者とも、資料から自分なりの読み取りを加えながら、積極的に課題に取り組んでいる様子が見られた。

< 検証・確かめ >

ーグループ活動ー

C: (資料3を見て) 名古屋が中心で、いろんなところに・・・

C: うん。名古屋の周りに広がってる 【資料3 愛知県の主な鉄道の路線図】

感じ。

C: それでさ一宮とか豊橋とか大きい市につながってる。

C: でも、この辺(東の方)なんにも通ってくない?

C: 本当だ。

C: ここってなんだっけ?

C: あの町とか村とかのどこ?

C: そうだ。山とかばっかのところ。

C: そういうところは通ってないんだね。

グループの中で、児童たちは素直な言葉で話し合いを進めている。友達の話に続けて意見を言ったり、反応を示したりして、ただの「言い合い」に終わっていない。また、東の方に鉄道の交通網が広がっていないことに気づいた児童を発端にして、「何でだろう」とみんなで考えたり、今までに学習した内容とを結びつけて話し合ったりしている。友達との対話を通して、互いに読み取った情報を出し合うことで、交通網の特色をとらえ、考えを深めることができた。

ウ 授業ごとの<まとめ>

【資料5 児童Aのノートのまとめ】

第2時	愛知県の地形は、東に山がたくさんあり、西はのうび平野で家がたくさんあることがわかりました。
第3時	愛知県の人口はだんだんふえてきています。とくに名古屋では10000人いじょうふえています。ほかにも、一宮や小牧、岡崎市なども人口がふえています。でも新城市や南知多町



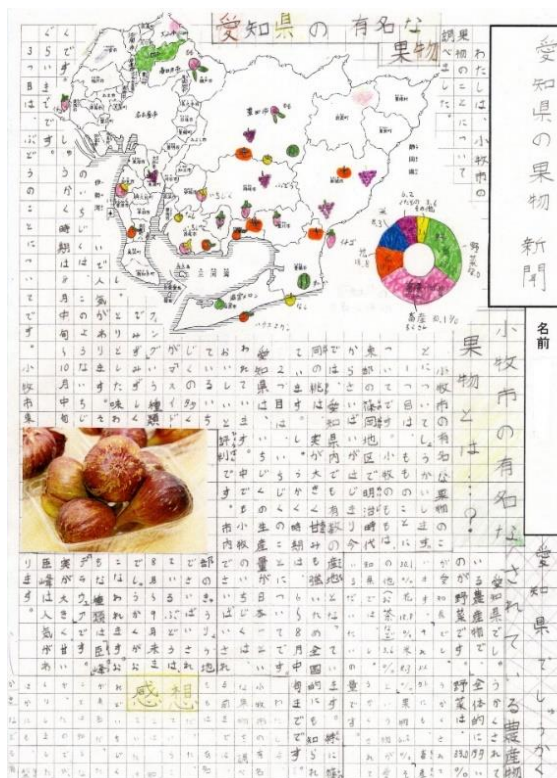
	などは、人口がへっています。
第4時	愛知県の気候は渥美半島では、冬でもあたたかく、雪もあまりふりません。美濃三河高原では、平地とくらべて気温が低くまた雪のふる量が多いです。
第5時	愛知県の交通は、人口が多い名古屋などは交通も多いということがわかりました。高速道路やてつどうがたくさん広がっているなと思いました。

毎回学習したことを踏まえて、ていねいに書くことができた。学習の内容を理解した上で、同じ愛知県内でも場所によって特徴があることが表現できている。児童Aは、自分の意見を言うことは少ないが、学んだことを着実に自分の言葉で記述している。

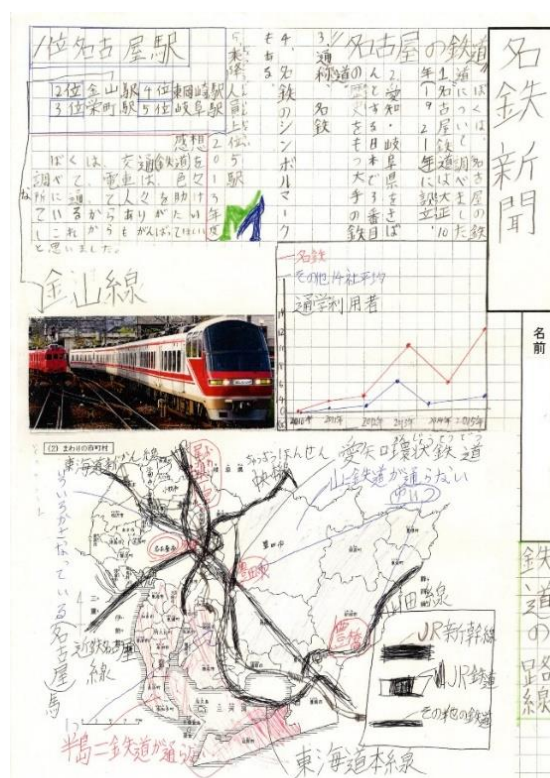
(2) 追究する

第6時～第8時にかけて、愛知県の新聞を作り、発表する時間を設けた。愛知県の人口、気候、交通、工業、農業の分野の中で、自分の興味を持った内容を選ばせて、活動に取り組ませた。パソコンや本などの資料を使って、必要な情報を収集し、個々で新聞にまとめていった。児童Aは、農業の分野で「果物」についての新聞を作り（資料6）、児童Bは交通の分野で「名鉄」についての新聞を作った（資料7）。

【資料6 児童Aが作った新聞】



【資料7 児童Bが作った新聞】



新聞づくりが終わった後に、グループ間での交流や、全体で発表をする場を設けた。発表の際、児童Aは小さな声ではあったが、「愛知県も小牧もいちじくが有名」という内容は、はっきり伝えることができていた。児童Bは、みんなに見やすいように新聞の持ち方を工夫し、さらに自分の話しているところを指し示しながら、自信を持って話すことができていた。

(3) まとめる

第9時には、今まで学習してきたことのまとめとして、紹介文を書かせた。

児童Bが最初にした紹介文では(資料8)、自分の行ったことがある場所や名物しか文に表せていない。文章中の『いろいろあって』『まだまだたくさんあります』という言葉からも、愛知県の魅力を伝えるための具体性に欠けている。最後に書いた文では(資料9)、具体的な数値を示したり、根拠を持って記述したりすることができている。『交通もさかん』であるという記述があるように、新聞作りで調べた愛知県の交通網についても言及できている。文章の中には『さかん』という言葉がたびたび使われており、愛知県ならではの特色やよさを理解し、紹介することができている。

【 資料 8 児童Bが最初にした紹介文 】

愛知県は、ゆうめいな場所がいろいろあって、たとえばコストコ、IKEAなどまだまだたくさんあります。食べ物は、名古屋コーチンが有名です。みなさんぜひ愛知県に来てください。

【 資料 9 児童Bが最後に書いた紹介文 】

まず、愛知県のすごくでかい市、名古屋市の人口についてです。名古屋の人口は、200万人以上、230万人以上とすごく人口が多い市です。愛知は工業もさかんで、有名なトヨタ自動車はとよた市からうまれました。車は、部品約3万こからできていて、ほかの会社とはちがって、トヨタ自動車は人気NO.1です。愛知県は交通もさかんです。いろんなものがさかんで、楽しいのが愛知です。

5 研究の成果と課題

(1) 仮説1について

グループや全体で話し合う活動を中心とした授業を行ったことで、受け身的な学習態度であった児童も少しずつ変化が見られた。本時の課題を自分のものとしてとらえ、

考えようとする意識が生まれ、グループの中で聞いてもらえるという安心感の中で、児童たちが資料を読み取りながら、生き生きと話をする場面が多く見られた。

教師側からも「なんでそう思った？」「どこからそう思った？」という発問を投げかけることで、さらにその課題について深く追究する姿が見られた。そして、発問に答えるほとんどの児童が、資料や実体験から裏付けられた根拠を示すことができていた。つまり、今までの学習の中でも、自分の考えを上手に伝えきれていない場合が結構多かったのではないかと感じた。そして、立てた予想を基に、調べ、検証していく流れで、今までよりも主体的に学習課題に向き合うことができた。よって、手だて①②は効果的であったと言える。しかし、手だて①については、こちらからの働きかけであるので、徐々にそうした発問が児童たちの間で交わされ、学習を深めていってほしい。根拠を明らかにしながら、話すことができるような手立ても講じていく必要がある。

（２）仮説２について

授業の中で「書く」ことが定着してきた。授業終わりのまとめの時間は、その一時間を振り返り、学んだことをもう一度自分の言葉で書き表すことで、愛知県の特色をより一層理解することにつながった。また、新聞づくりにおいては、児童ＡもＢも積極的に取り組むことができた。児童Ａは、いつも通りていねいに仕上げ、さらに発表の際には、自分の伝えたかったことを、小さな声ではあったがみんなに伝えることができた。児童Ｂは、文を書くこと自体はあまり得意ではないが、新聞づくりでは生き生きと活動に取り組み、発表の際は友達にも分かりやすく説明していた。また、紹介文では、少々言葉の拙さは感じられるが、愛知県の魅力を伝えたいという気持ちが十分に感じられる。このように相手に思いが伝わる文が書けるようになったのも、書く活動を継続的に取り組んできたからこそその成果と言える。以上より、手だて③、④、⑤においても、効果があったと言える。

（３）今後の課題

- 児童が主体となって話し合う際の教師の在り方
- 根拠を明らかにしながら話す力を育成するための手立て
- 「深い学び」の実現に向けての実践の発案

〈参考文献〉